

厚生施設群を図書館と一体のゾーンに集め 学生支援環境，学修環境を拡充・充実

千葉大学 総合学生支援センター及びその周辺整備



◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 学生支援環境を拡充整備し，多様な学生ニーズにスピーディーに対応
- 総合学生支援センターにコミュニケーション型アクティブ・ラーニング・ゾーンを，附属図書館に自修支援型アクティブ・ラーニング・ゾーンを一体的に拡充整備し，多様な能動的学修環境を提供
- 学生相互の支援・協働を実践・展開する新たな交流の拠点を形成

■ 計画設計のポイント



総合学生支援センター南側外観

学生の多様なニーズへの対応

点在する学生支援施設を既存の厚生施設ゾーンに再配置し，総合学生支援ゾーン，コミュニケーションゾーン及びアクティブ・ラーニング・ゾーンの3つからなるスペースとして集結させ，学生支援環境と学修環境を拡充・充実・整備し，多様な学生ニーズにスピーディーに対応する学生支援の拠点とするとともに，附属図書館と一体となった学生相互の支援・協働を能動的に実践・展開する新たな学修・交流の拠点を形成する。

学生支援・就職支援スペースの拡充

年々増加・多様化する学生生活や就職活動のニーズに即した

スペースを「学生支援プラザ」として，コミュニケーションゾーンやアクティブ・ラーニング・ゾーンと合わせて拡充整備することで，学生相互の多様なコミュニケーションを誘発し，より教育効果を発揮できるスペースとして提供する。



学生支援プラザ

また，学生生活や就職等の情報検索や相談がしやすい機能的なレイアウトにするなど，大学側のきめ細かいサポート環境を整備することで，学生自らが主体的に学び・考え・行動する人材として成長することに貢献する。

拡充整備した就業支援コーナーは，就職情報案内や就職相談という単なる就職支援だけではなく，インターンシップや就業力育成のための情報を提供し，また，普遍教育の授業である「キャリアを考える」の関連教科の教育図書等も幅広く充実させ，キャリア教育の情報発信の場に発展させる。

新たなアクティビティが誘発されるアクティブ・ラーニング・スペース

1階のアクティブ・ラーニング・スペースは，イングリッシュハウスとつながる空間として，学生の自由な発想，企画による課外活動，ワークショップ，市民参加のイベントの開催を可

能とし、学生の自主的・自立的活動を通して、多面的な能力形成を可能とするとともにグローバル社会に通用する人材育成にも寄与できる。

ピア・サポートの充実

2階に配置された「ふれあいの環（わ）」は、学生による多様な学生支援活動（ピア・サポート）を通じ、施設の運営を支える学生支援団体・教職員・卒業生及び地域の方々等との多くの出会いにより、刺激ある居場所として機能することで、学生自身の自主自立及びコミュニケーション力を高めることが期待でき、現代とこれからの社会が要請する総合人間力を磨く場所とする。



1階アクティブラーニングゾーン



2階ピア・サポートスペース

■ 整備戦略

学生総合支援センター整備検討委員会の設置

総合学生支援センターは、「千葉大学キャンパスマスタープラン2012」において共同利用ゾーンに位置しており、附属図書館とともにアカデミック・リンクを形成している。

今回の整備に当たり、アクティブ・ラーニング・スペースを図書館と厚生施設群にわたり一体的なゾーンとして整備を検討するため、平成22年度に教育担当理事を主査とする「学生総合支援センター整備検討委員会」を設置し、アカデミック・リンク構想と関連するアクティブ・ラーニング・ゾーンの一体的整備による効果や整備方針、配置計画等の検討を行った。



西千葉キャンパス将来ゾーニング

■ 利用の促進

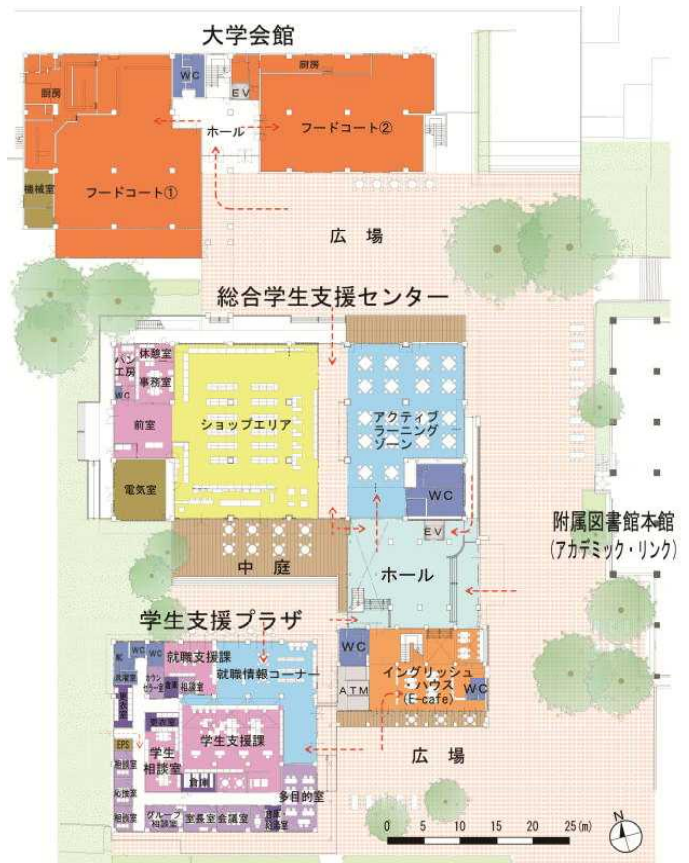
イングリッシュハウスがオープン

『くつろぐ、英語を話す、英語を学ぶ』をコンセプトに総合学生支援センターのコミュニケーションゾーン内に「イングリッシュハウス」がオープンした。

1階部分のイングリッシュ・ラウンジでは、毎日お昼休みにランチを食べながら、肩のこらない雰囲気の中で、英語でおしゃべりを楽しんでおり、ラウンジでは海外のニュース番組を見ながら、英語で世界の動きを知ったり、MANGAや雑誌で気軽に英語を



イングリッシュ・ハウス(E-cafe)



総合学生支援センター1階平面図

身につけたりすることもできる。

2階部分のイングリッシュ・サポート・センターでは、留学予定者への集中講義や、外国人ゲストによる英語の講演会、英語での映画鑑賞会など、英語を効果的に学べる様々なイベントを企画している。

学生アイデアコンペの実施

新しい拠点の外部空間において、新しいタイプのアクティビティが誘発されるよう「コミュニケーション広場学生アイデアコンペ」を平成25年度の実施した。今後、その最優秀案を基に、実際に広場の再生を実施する予定である。

■ 施設整備の効果

グローバル人材の育成

本建物の整備により、教職員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生が相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修環境が確保され、様々な分野での卓越した能力、異文化・異言語の相手との協働、世代・立場を越えたコミュニケーション能力が高まるとともに、就業力・人間力の身に付いた学生を社会に排出することに貢献できる。

特に、英語によるワークショップの開催や留学生との交流事業の開催等を通じて、千葉大学学生の「グローバル人材育成」が一層効果的に推進される。

この施設は、現在整備しているアカデミック・リンク（Ⅱ期）の完成により、総合学生支援センターと附属図書館（アカデミック・リンク）とが一体的につながり、学生及び世代を超えた交流の拠点となり、周辺の開放施設と相まって、これまで以上に「地域の大学」として認知される相乗効果が期待できる。

■ 補足

整備年度：平成23年度～平成24年度

外部空間を中心に厚生施設・講義室・事務機能を整備し、サテライトコアを形成する

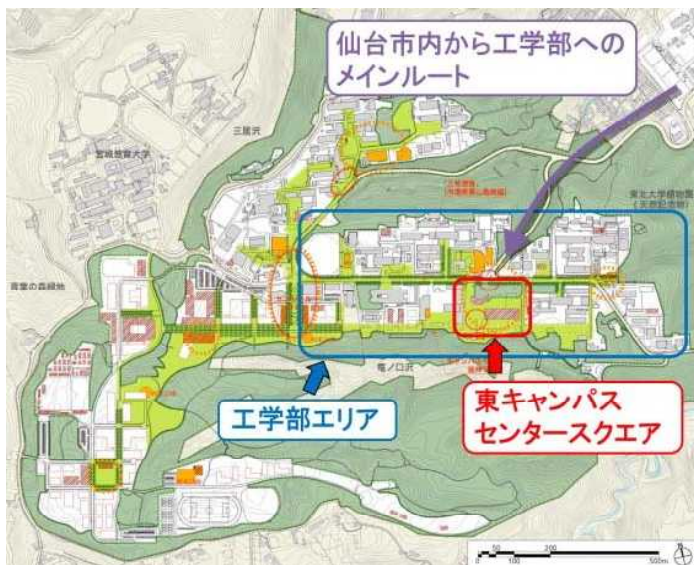
東北大学 東キャンパスセンタースクエア



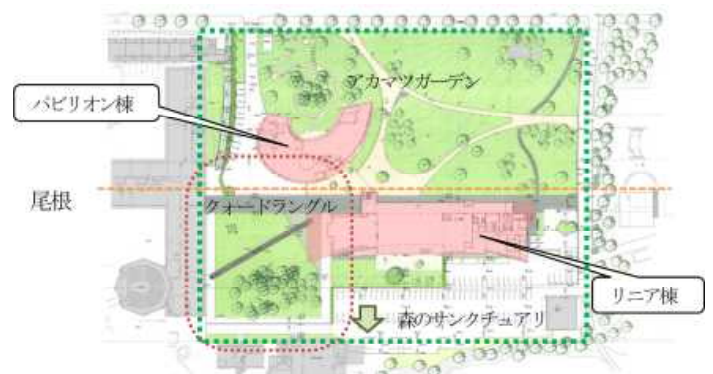
東キャンパスセンタースクエアーリニア棟北面外観

◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 学生、教職員、来訪者の交流拠点を整備し、豊かなキャンパスライフを可能にする
- 建築とランドスケープを一体的に整備し、シンボル空間を創出



青葉山キャンパスマスタープラン（抜粋）



センタースクエア外構イメージ

うせん) に沿ってリニアな形状の建物 (リニア棟) を配置することで東西に連なる工学部キャンパスの施設群を結びつける結節点となり、キャンパスの主役である学生と教職員の様々な活動を受け止め、尾根の景観を構成する新しい稜線としての役割を果たすことを期待している。

○明るく動的な南側と落ち着いた静的な北側環境

日照条件などの影響によって、尾根の南側と北側では異なる環境が形成される。この特性を生かし、良好な日照が得られるリニア棟南側は、斜面の緑豊かな樹木 (森のサンクチュアリ) を背景として明るいキャンパスモールに沿って賑 (にぎ) わいのある空間とし、南からの順光を受けるリニア棟北側は、穏やかで静的な思索の空間 (アカマツガーデン) としている。

○学生の活動空間をつくる

敷地北西側にある既存の赤



クォードラングル

■計画誠意系のポイント

交流拠点の整備

学生や教職員が一年間を通して豊かなキャンパスライフを満喫しうる、快適で品格ある交流拠点とするため、工学部の教職員・学生及び来訪者が利用する福利厚生施設 (売店、食堂等)、大会議室等を事務部門と合わせ集中して整備し、バリアフリー化や利便性の向上、学生窓口の一本化など、キャンパスアメニティを向上させ、人、モノが行き交う工学部キャンパスの中核を構築する計画としている。

地域の風景・環境を生かす

○尾根の風景を生かした新しい稜線(りょうせん)としての建築

本事業敷地は工学部キャンパス中央部にあり、また地形的には東西方向に走る尾根上にある。その点を生かし、稜線(りよ

松林を囲むように平屋のパビリオン棟を配置し、南側及び西側の既存建物と新築の2棟で四角形の整形の広場（コードラングル）をつくり、学生たちの活動の中心空間を形成している。



パビリオン棟外観

利便性の向上

リニア棟1階には一部貸切りも可能な飲食店舗、2階には学会等にも対応する大会議室や大講義室、3・4階には事務室・学生カウンター等を置き、利用者の利便性向上に留意している。



集約化により学生への一元化対応が可能な事務室

また、リニア棟には、食堂を設置しており、研究室に配属されるまでの2年、3年次の学生が落ち着いてキャンパスにいることができるよう、食堂客席はゆとりのある配置とし、ピーク利用時以外は快適な自習スペースとなるよう計画している。



ブックカフェ店舗内部

独立棟となるパビリオン棟にはコンビニ感覚で買物が可能な売店と、学生が書籍と親しみながら落ち着いた雰囲気の中で軽い飲食とともに時間を過ごせる「ブックカフェ」を計画し、学生生活を物心両面からサポートする空間を形成している。



人が集まり交流が生まれる食堂

整備戦略

工学部エリアの中心整備

センタースクエアの整備範囲は青葉山1団地・工学部エリアの中央に位置し、青葉山キャンパスマスタープラン上で工学部エリアの顔となるサテライトコアと位置づけられており、マスタープランに則（のっと）り工学部エリアの中核として整備を行っている。

整備推進体制の整備

本施設は全額学内財源による整備である。

設計には、工学部人間・環境系（建築系）の教員をプロジェ

クトマネージャーとしたチームが参画するとともに、意匠・ランドスケープ・照明等ごとに第一線で活躍しているデザイナーによる設計・監理等を進める体制を整えている。

なお、この施設の設計者を選ぶために2008年初頭に設計プロポーザルを行い、全国22社の応募の中から設計事務所を選定している。

利用の推進

ユーザーサイド等の参加

設計段階から直接教員等ユーザーサイドが参加することで、利用者動線のより実際の検討を行い、また、ブックカフェ内の書棚デザインに本屋のデザイナーを起用する等、現場の声を反映し、運用面での負担軽減を図っている。

福利厚生施設の運営事業者の募集に当たっては、募集要項を検討する「東北大学青葉山東キャンパスセンタースクエア（仮称）内福利厚生施設募集要項検討委員会」（以下、検討委員会）を設置し検討している。従来、このような検討委員会は教職員のみで構成することが主だが、学生サービスの向上と来訪者へのおもてなしの空間を提供するという観点から、検討委員には男女在学生、市内レストランのマネージャー等を加え、意見を求めている。

施設整備の効果

イベント等での利用

震災直後の稼働開始で、全国的に国際会議等の開催数が回復途中の中、本施設において多くのイベント等が開催されている。

アメニティの向上

老朽・狭あい化の著しかった工学部中央食堂及び大講義棟等が整備され、学生窓口の一元化が進み、キャンパスアメニティが向上している。また、二層吹き抜けの開放的でゆったりとした新食堂では食事や休憩に来た学生・教職員の雑談・会話が弾み、交流の拠点として機能している。

テナントとして入っている東北大学生協には、「新潟から来ました！東北大 食堂生協おしゃれでかっこイイ！」、「関西の学生です。ここすごいキレイですね。感動しました。うちの大学もこうであってほしい！ただ東北寒いですが・・・。ぬくくしてほしい！！」等のユーザーの声が寄せられている。



外部空間と一体的に運用され自然に親しめる厚生施設

補足

整備年度：平成20年度～平成22年度

基本設計：平成20年4月～平成20年6月

グッドデザイン賞（2012年）受賞

BCS賞（2012年）受賞